2023 年度 秋山喜代賞 受賞者

竹内牧場 代表　**竹内　美妃**　様

1. 浜中町における酪農経営活動

1998 年に家畜人工授精師の夫と一緒に北海道での酪農を志し、浜中町に移住。３年後、原野を開拓しながら１頭の牛を飼い、竹内牧場を始めました。

北海道立別海高等学校農業特別専攻科において２年間酪農学を履修して理論と実践を体系的に学び、竹内牧場を経営しています。

浜中町は、生産された牛乳がハーゲンダッツ製品の原料に使われるなど、高品質管理の酪農業を展開しており、竹内牧場も小規模ながら自然放牧型の酪農経営を実践しています。酪農業を夫婦がともに携わる生業とし、夫は家畜人工授精所を経営、私は看護師としての活動の場を持つことで、それぞれが専門職としての技術を地域で活かし、両立できる暮らしを目指しています。

2. 看護師キャリアを活かした地域福祉活動

看護師としてのキャリアを地域社会の貢献につなげるべく、2006 年 7 月に、浜中町農協と連携し、浜中町内の酪農家のお年寄りを対象にした「JA はまなかデイサロン」を開設しました。

酪農地域でリタイアした高齢者介護は大きな問題になっており、看護を組み合わせた高齢者介護支援事業は、介護保険制度に頼らない独自の看護と介護の連携手法として、他地域からも関心が寄せられるようになりました。質の高い看護を維持していくため、この取り組みを札幌医科大学医学部公衆衛生学講座にて医学的見地から研究し、介護予防活動として継続してきましたことは、超高齢化時代における包摂的な地域福祉のあり方に、一石を投じる挑戦になったと思います。

3. 災害看護、国際看護活動

地域医療の原点は、移住当初に勤務した浜中診療所で、故・道下俊一医師と一緒に仕事をした時にあります。悲惨な津波被害に遭遇した経験から長く僻地医療に従事した道下医師の地域社会に向き合う姿勢は私自身の中に通じるものがあり、それがこれまでの災害地支援、国際緊急医療支援の活動につながっていると考えます。

特に海外での災害緊急支援活動は、時間がない中での準備、劣悪な衛生、生活環境の下での活動でしたが、JICAによる政府支援活動、民間のAMDA での看護活動を評価いただき、多くの海外派遣要請につながりました。

災害支援で得た学び、教訓は、今後の災害看護学、国際看護学として発展させていくため、現在評議員を務める日本災害医学会で研究を続けています。

4. おわりに

酪農家として地域で暮らし、その地域を巻き込む形で看護活動を展開し、自分に今できる、可能な形で、災害支援、国際協力の分野においても活動をしてきました。同時にこれらを学術的に探究し、深めていくことが新たな地域創生のために必ず活きるものと考えます。

今年度看護学科が創設された帯広大谷短期大学は、まさにこの地域創生看護学を中核に据えており、私も来年度より非常勤講師として教壇に立つ予定です。

将来は、酪農業を営む家の子供たちが、朝夕は家業の酪農業を手伝いながらも、日中は家から通学して学ぶことができる看護学校を作ることが私の夢です。町の生業である酪農業を発展、維持していくためにも、地域の中に看護の知識と技術をもった者が身近にいることは、地域医療の大きな力になります。

今回この秋山喜代賞という大変名誉な賞を受賞させて頂きましたことをさらなる力として、今後も包摂的な地域政策、まちづくりの実践者、研究者として、酪農地域から発信、活動していきたいと考えています。

【関連記事サイト】：http://blog.akiyama-foundation.org/weblog/?p=47326